

平成26年度国際言語文化アカデミア事業計画に対する事前評価

平成26年3月7日

神奈川県立国際言語文化アカデミア外部評価委員会

国際言語文化アカデミアは、多文化共生社会の実現に向けて、外国語にかかる教員研修事業、外国籍県民支援事業及び異文化理解にかかる生涯学習支援事業を3つの柱として、平成23年度から本格的に講座を開講してきました。

これまで、外部評価委員会では、平成23年度及び24年度の実施事業に係る事後評価、平成24年度及び25年度の事業計画の事前評価を行ってきました。その中では、

- ・ 県民の様々なニーズにきめ細かく対応できる講座カリキュラムを編成すること
- ・ 受講者が参加しやすいよう、講座の開講時期や方法を工夫すること
- ・ 開講する講座情報を的確かつ確実に届ける効果的・効率的な広報を工夫すること
- ・ 講座への反映を意識した研究活動を充実すること
- ・ 今後、アカデミアとしての全体像を明確にしていく必要があること

などについて、意見を述べてきたところです。

平成26年度事業計画に係る事前評価を行うに当たり、こうした意見がどのように事業計画に反映されているか、また、受講者からのニーズがどのように活かされているか、県民ニーズが捉えられているかなどの観点から評価を行いました。

この評価を踏まえ、平成26年度のアカデミア実施講座がより充実したものとなり、神奈川県における多文化共生社会の実現に寄与することを願います。

総括

総じて、これまでの事後評価・事前評価を踏まえ、改善が進んでいると評価できます。

- ・ これまで3年間の取組を踏まえつつ、社会環境の変化や県民のニーズに対応した講座カリキュラムの編成に努めていると評価できます。また、受講者アンケートの分析に加え、直接受講者から要望や意見を伺う機会が設けられることになりました。今後、より一層受講者ニーズに即した講座が展開されることを期待します。
- ・ 出前講座メニューを新設・増設するなど、受講者の利便に配慮した講座編成ができてきていると評価できます。
- ・ 引き続き、自治体や関係機関と協力して、有効な広報を行うことを期待します。
- ・ 研究に関しては、講座への反映を意識した新たな実践的研究に積極的に取り組むことになっています。今後、研究成果が開講講座に反映されることを期待します。
- ・ 「アカデミアとしての全体像」については、3つの事業の性格や対象者が異なることから、無理にそれらを結び付けて全体像をつくるのではなく、設置目的である「多文化共生社会の実現に寄与する」という理念をベースに据え、3つの事業がそれぞれの分野で専門機関としての位置付けを明確にしつつ、どの事業でも、学べば「多文化共生」の考え方が自然と身に付くような講座を展開することが重要です。ただし、3つの事業で内容や対象者が重なっている講座もありますから、そうした講座の関連をわかりやすく示す工夫をすることが望まれます。

以下、それぞれの事業について意見を述べます。

1 外国語にかかる教員研修事業

平成 23 年度～25 年度に小学校、中学校、高等学校で順次施行された新学習指導要領では、21 世紀の知識基盤社会、グローバル化に対応した「生きる力」の育成を念頭に、英語教育においては4技能（聞く、読む、話す、書く）を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成が強く求められています。

外国語にかかる教員研修事業では、中学高校等の英語担当教員や小学校の外国語活動を行う教員のコミュニケーション能力をより一層高められるよう、研修内容をより実践的で効果的なものに改善するとともに、合わせて、研修がもたらす学校授業への波及効果を最大限に高められるよう研修方法を改めつつ、波及効果のプロセスに係る研究に着手するなど、積極的に研修講座のブラッシュアップを試みていることは評価できます。

<英語担当教員研修>

- ・神奈川県で中核的役割を担う高等学校英語科の教員に専門性の高い研修の機会を提供する「英語教育アドヴァンスト研修」については、定員を20人から25人に増加することになっています。受講者同士の共同研究を取り入れるなどの工夫によって、これまでと同じく質の高い研修となるよう期待します。
- ・「英語による授業」に対応する「言語活動&教室英語」の研修講座などについて、中学校と高等学校で求められる内容が異なることに応じ、校種別に開講することは、より実践的な研修となることが期待できます。
- ・フィードバックの無い研修では、研修内容の授業への波及効果が薄いことを踏まえ、これまで半日単位で開講していた研修の一部を「集中講座」として、午前中の研修内容を午後じっくり演習でトレーニングできる一日講座に改めることは、研修の波及効果を高めるものとして期待できます。

<小学校英語活動研修>

- ・学期中にアカデミアで開講する研修は土曜日であっても受講者が少ないこと、その一方で出前講座の需要が増えてきていることを踏まえ、学期中の研修講座を廃止し、出前講座にシフトすることは、多忙な小学校教員の受講を促進すると期待できます。
- ・これまでの出前講座において、教材「Hi, friends!」の活用法が特に求められていることを踏まえ、出前講座のコンテンツに「Hi, friends!」の活用法を必ず取り入れるようにしたことは、小学校現場のニーズに適うものです。
- ・小学校英語では「英語で楽しむ」、「英語に親しむ」ことが求められており、中学校で教科化されている英語とは質が違います。担任は、一グローバル市民として、英語のスキルを教えるALTと児童との繋ぎ役を担うことが求められています。ですから、エキスパート養成に重点を置いた講座を中心に据える必要はなく、カリキュラムの立て方などの研修講座を、興味のある教員のために現場目線に立って設けることが望ましいと考えます。

<研究>

- ・研修の波及効果のプロセスに係る研究は、研修講座と研究を並行して行うアカデミアならではのものです。積極的に進めて欲しいと考えます。
- ・アカデミアが研究機関として評価されるためには、講座運営の根底にある研究の実績が必要です。年1回の紀要の刊行の他、学会等で発表していくためには、より研究を奨励する環境を整備することが求められます。

2 外国籍県民支援事業

外国籍県民支援事業では、外国籍県民のくらしやすい環境づくりを目指して、外国籍県民を直接対象とする講座とともに、日本語ボランティアや行政職員、教員等の支援者を対象とする講座を実施しています。

これまで3年間の取組みを通じて、外国籍県民及び日本語ボランティア等の実情やニーズが明確になってきたことを踏まえ、多文化共生の視点に立った、より専門的で実践的なアカデミアならではの講座となるよう、講座内容の見直し、さらにはスクラップアンドビルドを進めていることは評価できます。

そもそも、外国籍県民支援は幅の広い取組みであり、アカデミアでその全てをカバーすることは不可能です。今後、市町村や地域の関係団体等、他の機関でも実施できる講座は整理する等、更なる講座の見直しを進め、より実践的で内容の充実した講座を展開していくことを望みます。

<日本語指導者などボランティア養成のための講座>

- ・県内各地域の日本語ボランティアにとって、日々の支援を円滑に行うことに直結する講座へのニーズが大きいことを踏まえ、「敬語を考える」、「日本語の歴史」等のいわゆる教養的な講座を休止し、「語学学習用イラスト講座」等の実践的なスキルアップに直結する講座を増設するという試みは、ボランティアのニーズに合うものと考えます。

<外国籍県民への共生支援にかかる講座>

- ・これまで3年間の受講者の傾向から、
 - ◇来日して日が浅い外国籍県民にとって、生活圏から離れた場所での講座受講には困難が伴うこと
 - ◇日常生活を営むための日本語はほぼ習得したが、地域住民としてコミュニティにかかわるための言語運用力や、日本の社会制度や生活習慣についての知識が不足している外国籍県民が多いことなどがはっきりしたことを踏まえ、日本語に初めて接する外国籍県民向けの講座を見直し、日本語能力が中上級者の外国籍県民向けに社会参加のための日本語習得を支援する講座を増設することは、地域の日本語教室の会話中心の講座とは異なるアカデミアならではの講座を展開していく試みとして期待できます。

<外国籍県民向け行政サービス支援にかかる講座>

- ・他所ではあまり行われていない講座であり、潜在的なニーズもさらにあると思われるので、引き続き取り組んで欲しいと考えます。

<研究>

- ・平成24～25年度に作成した、非文法積み上げ方の教材「つながる日本語」を今後も活かしていくための研究を行うことになっています。限られた教員数で講座と研究をバランスよく行うことは大変であると考えますが、実践的で内容の充実した講座を実施するためにも、積極的に進めてほしいと考えます。

3 異文化理解にかかる生涯学習支援事業

異文化理解にかかる生涯学習支援事業では、広く県民に向けて、アカデミアの理念である異文化理解、さらには多文化共生意識の醸成のための講座を実施しています。

これまでの3年間の取組みを通じ、生涯学習支援事業としての講座編成が明確になってきていることは評価できます。また、一部の講座は、関係する他の事業との相互連携により企画されています。こうした講座については、リストアップして各事業間の関係性がわかるようにした上で、講座対象者に向けてアピールしていけば良いと考えます。

次に、横浜国大等、外部の機関との連携を進め、小中高等学校とのつながりも広めていることは、事業の幅を広げることにつながり評価できます。他にも、例えば少数言語の講座では、その国出身者の団体を訪問して会話の機会を作るなど、外国人コミュニティや諸団体とのつながり、連携も模索できるのではないかと考えます。

第三に、毎年同じような講座を開講するのではなく、受講者ニーズの多様性に柔軟に对应していく必要があります。ここ数年、事業を実施して判ってきた受講者の傾向や社会の新しいトレンド等をスタッフが共有し、ディスカッションして講座編成を考えていくべきであると考えます。

<多文化共生の人と社会を考えるための講座>

- ・多文化共生の基本やアカデミアの講座の概要を紹介する講座を新設し、無料で実施することは、受講者にアカデミアの「入口」で知っておいてもらいたいことを定着させる上で、大変有効な方法であると考えます。多くの受講が得られるよう、広報で、講座の性格についてわかりやすく説明して欲しいと考えます。

<異文化理解のための言語文化講座>

- ・日本文化を扱う講座が新設されますが、コンセプトを明確にした上で内容を具体化する必要があります。日本文化紹介が外国人への押し付けにならないよう、こちらが伝えたい日本文化と外国人が知りたい日本文化の両方を扱うなど、工夫して欲しいと考えます。
- ・アジア、南米地域等の個別文化圏を体系的に学ぶ講座が開設されますが、その土台となるような国際社会のあり方やグローバル経済、地球規模の課題に関する講座を充実することも必要であると考えます。
- ・文学に関する講座について、「多文化共生」さらには「マイノリティ」を基本とすることは重要ですが、個々の講座については、受講者の集まり具合、アンケート意見等を見ながら、受講者のニーズに応じて趣向を変えていく必要があると考えます。

<異文化理解とコミュニケーションのための語学講座>

- ・いくつかの言語については「実践応用編」や「翻訳編」を開講するなど、中級クラス修了後の学習の道筋が整ってきていることは受講者にとって好ましいことです。
- ・少数言語についても、その国や地域の文化編、言語入門編、初級編とパターン化したカリキュラムが出来つつあることは、受講者にとって好ましいことです。
- ・言語学習のニーズは、そのときどきで微妙に変化します。まず、数回開講の講座を実施し、その手ごたえを見てから、本格的な、文化も一緒に学べる語学学習講座を開講するといった工夫でニーズのある言語を選んでいけば良いと考えます。

<研究>

- ・講座とのかかわりが深い「異文化コミュニケーション」に関する研究が計画されています。研究にも十分な時間をとれるように配慮して欲しいと考えます。

1 国際言語文化アカデミア外部評価委員会設置目的

国際言語文化アカデミアが実施する多文化共生社会づくりへ向けた各種講座について、より効果的・効率的な事業推進を図るため、講座内容や実施方法等に関し、外部の有識者で構成する外部評価委員会を設置し、事業評価を実施する。

2 外部評価の手法

(1) 事後評価

各講座で実施したアンケートによる受講者評価及び講座担当教員が行う自己評価に加えて、一部講座の視察結果等を踏まえ、講座内容や実施方法等について評価を行う。

①受講者による評価

各講座受講者を対象に、受講後、講座に対する満足度や感想、要望等について自由に記入するアンケート調査を実施

②自己評価

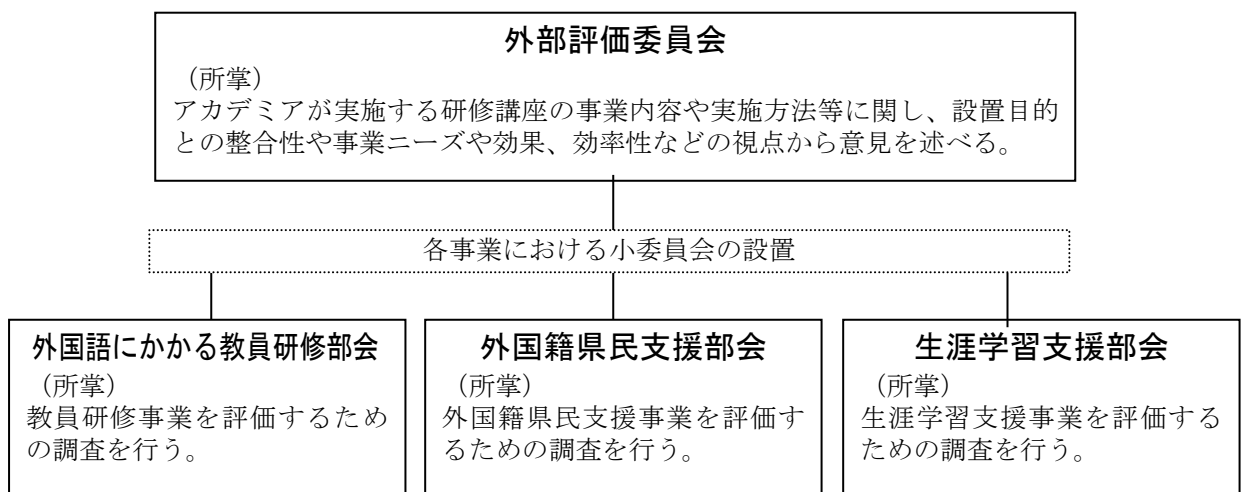
①の受講者による評価結果を踏まえ、講座を担当した教員が、自分の実施した講座についての自己評価を実施

(2) 事前評価

次年度実施予定講座について、外部評価委員会での事後評価結果等を踏まえ、講座内容や実施方法等について評価を行う。

3 外部評価委員会の構成

次のとおり、外部評価委員会と3つの小委員会から構成される。



4 外部評価委員

第2期委員（任期：平成25年4月1日～平成27年3月31日）

(50音順)

氏名	役職等	所属小委員会
安部 晋弘	(公社)青年海外協力協会あーすぷらざ館長	外国籍県民支援
石部 裕通	(一社)神奈川県経営者協会専務理事	外国籍県民支援
稲田 素子	立教大学文学部教育学科兼任講師	生涯学習支援
粕谷 恭子	東京学芸大学教授	外国語教員研修
○佐藤 公明	公募委員	生涯学習支援
田近 裕子	津田塾大学教授	外国語教員研修
服部 孝彦	大妻女子大学教授	外国語教員研修
丸谷 士都子	NPO法人地球の木理事長	外国籍県民支援
◎渡邊 慎介	(学)関東学院常務理事	生涯学習支援

※ ◎委員長 ○副委員長

5 外部評価委員会による評価結果

(1) 事後評価

- ・平成23年度実施事業(4月～9月)に対する評価 平成23年12月19日公表
- ・平成23年度実施事業(10月～3月)に対する評価 平成24年11月30日公表
- ・平成24年度実施事業に対する評価(本評価) 平成25年6月28日公表

(2) 事前評価

- ・平成24年度事業計画に対する事前評価 平成24年3月30日公表
- ・平成25年度事業計画に対する事前評価 平成25年2月28日公表
- ・平成26年度事業計画に対する事前評価 平成26年3月7日公表

6 外部評価委員会の開催状況

(1) 外部評価委員会

- 第1回 平成23年8月1日(月)
- 第2回 平成24年2月1日(水)
- 第3回 平成24年7月1日(日)
- 第4回 平成25年1月21日(月)
- 第5回 平成25年5月23日(木)
- 第6回 平成26年1月23日(木)

(2) 小委員会

ア 外国語にかかる教員研修部会

- 第1回 平成23年8月1日(月)
- 第2回 平成23年9月7日(水)
- 第3回 平成24年2月1日(水)
- 第4回 平成24年7月1日(日)
- 第5回 平成24年9月12日(水)
- 第6回 平成25年1月21日(月)
- 第7回 平成25年5月23日(木)

第8回 平成25年8月1日(木)

第9回 平成26年1月23日(木)

イ 外国籍県民支援部会

第1回 平成23年8月1日(月)

第2回 平成23年9月17日(土)

第3回 平成24年2月1日(水)

第4回 平成24年7月1日(日)

第5回 平成24年9月18日(火)

第6回 平成25年1月21日(月)

第7回 平成25年5月23日(木)

第8回 平成25年7月18日(火)

第9回 平成26年1月23日(木)

ウ 生涯学習支援部会

第1回 平成23年8月1日(月)

第2回 平成23年9月3日(土)

第3回 平成24年2月1日(水)

第4回 平成24年7月1日(日)

第5回 平成24年9月29日(土)

第6回 平成25年1月21日(月)

第7回 平成25年5月23日(木)

第8回 平成25年9月21日(土)

第9回 平成26年1月23日(木)